

森林環境税活用事業報告②

高知北高では、「総合的な探究の時間」の 私たちと環境 グループが、「森林環境税活用事業」を活用して、自然環境について考える様々な活動を行っています。

「森林環境税活用事業」とは、高知県の取り組みの1つです。高知県では、県民みんなの負担で森づくりを進めるため、平成15年に全国に先駆けて森林環境税を導入しました。この税を使って森林環境学習への支援も行われており、それを高知北高でも活用しています。

その内容について紹介していきます。

6月24日(金)「バードカービングに挑戦」

今回は、木に親しむことを目的として、バードカービングに挑戦をしました。「体験活動高知」代表の堀田幸生先生を講師に招き、雑木から小鳥を誕生させました。この日使用したのは「楠」です。その香りは防虫剤に使用されていたことや高知県(土佐藩)とも所縁が深いことなども教えていただき、良い香りがいっぱい広がった教室で集中して作業していました。

生徒たちからは、「難しかったけれど木を削るのが楽しかったし、めっちゃいい香りだった。」「教えてくれた先生がやさしくて楽しかった。」「意外と簡単にできて、おもしろかった。」「作業に集中するとあっという間に時間が過ぎた。香りもよくて幸せでした。」「自分で作品を作ることが楽しかった。」などの感想がありました。次回の授業では削りカス(楠チップ)から樟脳の結晶を取り出す予定です。この授業をきっかけに、自分たちの生活の中に生かされている森の恵みや木の良さについて知ってもらいたいです。

